

(熊本県立小川工業) 高等学校 平成 29 年度学校評価表

1 学校教育目標

本校のすべての教育活動をととして、校訓「誠実・剛健・礼節」を基底に置き、知・徳・体の調和に留意し、心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。また、「ものづくりを基盤とした人づくり」を実践しながら、社会の変化に的確に対応し、自立して未来を拓く主体性のある生徒を育成する。さらに、各科の特色を活かした取り組みを行いながら、地域社会から信頼される学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 専門高校として、ものづくりを通じた人づくり教育を推進する。
- (2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組を充実する。
- (3) 心身ともに健康で、豊かな心をもった生徒を育成する。
- (4) 地域に信頼され、特色ある学校づくりを推進する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育目標	教育重点目標の周知と達成度	・職員の共通理解を図り、生徒全員が重点目標をきちんと理解し、具体的行動ができるようにする。 ・アンケートの周知の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。	・職員朝会時における職員の意思統一を図り、教師から生徒への周知と指導を徹底する。 ・保護者会や情報発信による担任と保護者の連携強化	B	・アンケート結果から本校の教育目標や教育方針の理解について、職員97%、保護者91%という結果に対し、生徒は69%という結果であった。職員間、また保護者との連携や情報共有は図れていると思われるが、今後さらに生徒への理解を深めていく必要がある。
	特色ある学校づくり	工業教育の推進	・ものづくり教育の充実 ・資格取得の推進	・工業系各種大会での活躍 ・ジュニアマイスター認定者の増加 ・専門性を活かした進路実績	A	・熊本県ものづくりコンテストにおける土木測量部門金賞、エコ電レース九州大会乾電池部門3連覇、マイコンカーラリー熊本県大会団体準優勝、2名が全国大会出場など、工業系各種大会で好成績を収めた。 ・資格取得推進の指標となるジュニアマイスター認定数は39名で昨年より14名増えた。技能検定では4名が優秀合格者に選ばれている。進路面では、工業高校の特性を活かして、今年度も早期に100%の就職を達成した。
		部活動の充実	・部活動の加入率90%以上 ・県大会ベスト8以上 ・全国大会への出場	・顧問間の連携 ・部活動環境の整備 ・指導者の育成	A	・部活動加入率は93.9%で、前年度より4ポイントアップした。 ・弓道部、レスリング部が県高校総体団体2位。弓道九州大会ベスト8。レスリング部新人戦で2名が優勝、延べ6名が全国大会出場。陸上競技部は県高校総体2名入賞、南九州大会及び九州大会出場。バレーボール部県高校総体ベスト8。
		入学志願者定員確保の取組	・全職員による組織的な取組 ・中学校との連携強化と情報発信の充実	・進路説明会の充実 ・中学校や地域への広報活動の充実 ・中学生体験入学の充実	B	・中学校の進路説明会に本校の出身生徒を参加させたり、広報紙「小川工だより」を創刊するなど新たな広報活動を積極的に行った。 ・体験入学後、新たな取組として放課後2回の学校説明会を実施し、20名近くの参加者があった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
	学校改革の推進	校務改革の推進	・校務の効率的推進と「生徒と向き合う時間」の確保	・校務分掌の見直し ・報告、連絡、相談の徹底と各分掌間の連携強化 ・運営委員会、職員会議の効果的運営	B	・生徒と向き合う時間の確保及び働き方改革に向けて、職員アンケートも活用し校務の効率的推進に取り組んだ。 ・より機能的な校務分掌組織を目指して、次年度に向けて見直しを行っている。
		授業改革の推進	・生徒が主体的、共同的に学ぶ授業の推進	・アクティブラーニング型授業の実践 ・ICTを活用した授業の実践	B	・1学期は研究授業週間の中で、アクティブラーニング及びICT活用をテーマに研究授業に取り組んだ。 ・2学期は、アクティブラーニング型授業やICT活用の推進を柱とした授業改善の職員研修を実施した。外部講師による講話や職員同士のグループ協議により、授業改善の認識を深めることができた。
学力向上	基礎学力向上	基礎学力の向上	・学年成績において、全クラスとも平均点60点以上 ・欠点数前年度比10%減	・習熟度別授業及び個別指導の充実 ・考査前学習会の実施 ・教室の学習環境整備	B	・数学と英語で習熟度別授業数を実施しており、効果を上げている。 ・考査前には学習会を行い平均60点以上は達成できているが、総欠点数は昨年度より増加傾向にある。
	自学力の育成	学習意欲向上と自宅学習の定着	宅習時間1時間の確保と宅習の習慣づけ	・各教科による宿題や課題の工夫	C	・宅習時間調査の結果によると、宅集時間が1時間に満たない生徒が多く、習慣づけのための対策を検討する必要がある。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	・年2回の公開授業、研究授業週間の実施 ・年2回の授業評価アンケートの実施	・公開授業、研究授業週間における教員相互の授業参観を充実させる。 ・授業評価を活用した授業改善	B	・年2回の公開授業の中で研究授業を実施し、相互に授業参観しながら授業力向上に努めた。 ・年2回生徒に授業評価アンケートを実施し、その結果を授業に生かすように努めた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	進路意識向上と進路目標の明確化	・マナー教育を柱に豊かな人間性の育成と、主体的な進路選択ができる能力を養う。 ・望ましい職業観・勤労観の育成 ・進路情報の提供	・LHR等活用した進路指導の充実 ・就職適性検査、外部模試の活用 ・職員研修による資質の向上 ・外部講師等による進路講演会やガイダンスの実施 ・インターンシップ、企業訪問等の実施	B	・ほぼ計画通りに実施することはできた。今後は、1年生の2学期、2年生の1学期にキャリア教育に結びつく取組を行うなど、3年間を通した全体計画を見直す必要がある。
	目標進路の達成	就職、公務員指導の充実	・進路内定率100% ・県内定着率の向上 ・早期離職防止の指導	・適正な進路指導及び徹底した面接指導と試験対策 ・熊本しごとコーディネーターと連携した進路指導の充実 ・課外と学習会の充実 ・外部講師による職業講話の実施	A	・学校紹介の就職は早い時期に全員の内定を得ることができた。また、県内就職者の割合も増加した。公務員については1名が希望職種に合格することができなかった。
		進学指導の充実	・合格率100% ・国公立大合格1名以上	・適正な進路指導および課外の充実・個別指導の充実 ・進学説明会やオープンキャンパスへの積極的参加 ・保護者への進路講話の実施	B	・進学希望者は全員合格することができた。 ・国公立大学については、希望者がいなかったため受験しておらず今後の課題である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	規範意識	ルール・マナーを守る態度の育成	・問題行動の未然防止に努め特別指導件数の減少を目指す。	・生徒指導部通信や安心メールによる重点指導事項の周知 ・学年集会、学科集会による指導の徹底 ・特別指導の充実と継続的な指導	B	・問題行動の件数および人数は昨年度よりもやや多い14件25名(H28は12件25名)であり、未然防止のための指導ができていなかった点が反省点である。 ・学年や各科と連携し、多方面から規範意識を向上させる指導が必要である。
	基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立	・挨拶の徹底と頭髪服装指導における一次合格者数90%以上	・日頃からの挨拶、服装指導の徹底、毎朝の登校指導の実施 ・指導期日連絡の徹底 ・統計結果の周知と還元	B	・職員の協力により、継続した登校指導が図れた。 ・2学期以降服装頭髪や生活態度の乱れが目立ち、頭髪服装指導の目標である一次合格者90%を達成できなかった。
	交通安全	交通安全意識の高揚	・交通事故をなくす。 ・交通違反をなくす。 ・二重ロック率の向上	・交通安全講話の実施 ・原付通学状況の不定期調査 ・原付通学生集会の定期実施 ・交通委員活動の充実(二重ロック点検等)	B	・二重ロックの徹底を図ることができ昨年度よりも二重ロック率は大きく向上した。 ・交通違反は2件あったが、大きな交通事故は1件もなかった。交通安全講話の実施、また、通学状況調査等も随時続け、安全意識の向上に努めたい。
	自主性、社会性の育成	生徒会活動の活性化	・生徒会行事の充実 ・委員会活動の充実	・生徒会役員の組織充実 ・生徒の満足度を高める行事の工夫	A	・各行事毎に生徒会を中心とする計画的な活動が見られた。 ・今後は指導体制を充実させ、生徒会主体の活動をさらに広げていく必要がある。
人権教育の推進	人権教育の計画的推進	＜生徒対象＞ 人権教育に関する研修の実施及び事前事後学習と関連させたLHR等での学習の深化	年間指導計画による確実なLHRの実施 ・1年次：身の回りの差別 ・2年次：差別の現実 ・3年次：就職差別と人間解放	・学年会におけるLHRに向けた資料作成および事前学習会の実施	B	・各学年の個性や実態に応じた柔軟な指導が可能となり、生徒一人一人に配慮した、より効果的な指導ができた。 ・3学期は、1学年と3学年はDVDを活用し、2学年は一寸法師やかぐや姫などの昔話をアレンジした馴染みやすい教材を活用した。 ・早い時期に、各学年団に資料を提供することができなかった。
		＜教職員対象＞ 人権教育に関する研修を通じた意識の高揚	・人権教育推進委員会定例会の実施 ・校内職員研修の年2回以上実施 ・校外研修へ年1回以上参加	・校内職員研修会の実施 ・地区や県の人権教育研究大会への参加	B	・菊池恵楓園の訪問研修に参加した職員の報告を盛り込む研修等を実施して意識の高揚が図れた。 ・今年度初めて宇城人権教育研究大会の開催日程に合わせ勤務日の振替を行い、ほぼ全員が参加できた。また、年1回以上校外研修への参加も達成できた。
	命を大切にす る心の育成	命を大切に する心を 育む指導の 推進	・関係機関と連携して講演会等を年3回以上実施する。 ・各教科において、命の大切さについて考えさせる教材を取り扱う。	・各教科、各学年、生徒指導部等が連携して、計画的に取り組む。 ・関係機関との連携を密にする。 ・各教科の指導内容を洗い出し情報を共有する。	B	・外部講師による講演会を年間3回開催し、いろいろな角度から生徒に命の大切さについて考えさせることができた。 ・心のケアが必要な生徒について、スクールカウンセラーと連携して対応することができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	未然防止	啓発活動の推進	・いじめを許さない環境を整え、いじめが発生しない雰囲気を醸成する。	・いじめについて考えるワークショップをHRで実施する。 ・いじめ防止のための行動目標を設定する。 ・各教科やHRでいじめ防止のための教材開発や雰囲気づくりを行う。	A	・いじめについて考え、生徒たち自身にいじめをなくすスローガンを考えさせることで、いじめを許さない雰囲気の醸成を図ることができた。 ・今年度の取組を一過性のものにしないように、今後継続した取組を実施していく必要がある。
	早期発見	いじめ発見の取組の推進	年間3回以上、アンケート調査を実施する。 ・担任による面談を随時実施し、実態把握に努める。	・生徒指導部が立案し、学期に1回学校全体で取り組む。 ・学級担任、教科担任、部活動顧問等が情報を共有する。	B	・各学期1回、アンケートによるいじめ発見の取組を実施し、いじめの早期発見につなげることができた。 ・日ごろから職員間で生徒の情報共有を図り、部活動や日常の様子を通して生徒の変化等の早期発見に努めたことで、早期対応・早期解決に導くことができた。
	発生した場合の対応	いじめの実態把握	・いじめの実態把握を迅速に行う。	・いじめ問題対策委員会を中心に、学年、学科、各部が連携する。	A	・学期毎にいじめ問題対策委員会を開き、いじめの実態把握をすることができたが、より緊密な連携体制を各部署と構築する必要がある。
		被害者へ対応	・被害者の心のケアを行う。	・スクールカウンセラー等と連携して心のケアを行う。	B	・担任やスクールカウンセラーを中心として、被害者や保護者へのケアやサポートを図ることができた。
		加害者及び周囲の生徒への対応	・加害者及び周囲の生徒に対して必要な指導をする。	・生徒指導部が中心となって、被害者の思いを理解させる。	B	・担任や各科が中心となり、加害生徒及び周囲の生徒への適切な指導を図ることができた。今後はより迅速な対応が求められる。
	再発防止	再発防止のための取組の推進	・取組について検証を学期ごとに実施する。	・情報交換とともに、取組について検証を行い、取組の充実を図る。	B	・いじめ問題対策委員会等で情報共有や改善策が講じられたため、それぞれの問題に対する早期対応や再発防止につなげることができた。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	開かれた学校づくり	地域連携及び地域貢献	・地域の小・中学校及び支援学校との連携	・ものづくり教室等の実施 ・近隣小学校での本の読み聞かせ ・特別支援学校への教材教具の提供及び技術支援	A	・工業科5科が支援学校と連携して教具の開発及び交流を重ねている。 ・小学生対象のプログラミングによるロボットカー製作会を本年度も開催し、好評であった。 ・今年で10年目を迎える近隣小学校への読み聞かせは、2・3学期に実施し、小学生にとっても喜んでもらい充実した取組となった。
			・地域行事、ボランティア活動等への積極的な参加	・工業各科の連携による地域イベント参加、作品提供 ・各種ボランティア活動への参加	A	・小川夏祭り、イオンモール20周年イベント、小川駅前初市など多くの地域イベントに参加し、工業高校の魅力の発信に努めた。 ・10件のボランティア活動に参加し最も多いのは18名、平均8名の参加であった。参加回数は3回以上が7名と、積極的に参加する生徒が目立ち、活発な活動ができた。
		防災型コミュニティ・スクール	・活動計画の作成と体制づくり	・定期的な学校運営協議会の開催 ・地域と連携した防災計画の作成 ・避難所マニュアル作成	B	・学校運営協議会は予定通り開催し、地域の方々と充実した協議を行うことができた。 ・地域と連携した防災訓練は次年度以降となったが、今後も地域との話し合いを行っていく。 ・学校の避難所マニュアルを完成することができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
		家庭との連携	・PTA総会、学校行事等の保護者の参加率85%以上。	・保護者への学校情報の提供 ・PTA役員と連携して保護者の参加を促す。	B	・PTA総会の参加率は84%で、ほぼ目標を達成することができた。 ・体育大会、北辰祭、ロードレース大会、登校指導、広報委員会等多くの保護者にご協力いただいた。
		学校の公開と情報の発信	・学校HPの充実 ・安心メールの活用 ・公開授業、研究授業の推進	・学校HP充実のため職員研修実施 ・年間2回の公開授業、研究授業週間の充実と保護者、地域への周知	A	・HP更新の職員研修を実施した結果、更新に携わる職員が増え、アクセス数も年度当初の3倍以上に増加した。 ・学年保護者会において授業参観を実施するなど、機会あるごとに授業見学や研究授業の推進を図ることができた。
特別支援教育	特別支援教育への理解と推進	教職員の専門性の向上	・特別支援教育に関する自己啓発と共通理解及び推進	・研修会への積極的な参加 ・校内職員研修の実施	B	・研修会への積極的な参加はできたが、校内職員研修をもっと充実させる必要がある。
		生徒の学校生活の保障	・多様な生徒への早期対応及び合理的配慮の提供	・生徒理解研修の実施 ・悩み等への適切なアドバイスや相談 ・生活面や進路保障に向けた適切な指導 ・健康教育部(教育相談)と学年及び学科との連携の充実強化	B	・生徒理解研修は入学前と各学期に実施することができた。 ・生徒への合理的配慮については健康教育部、科、学年と連携して取り組んだが、指導が行き届かなかったところもあり今後の課題である。
教育環境整備及び安全	環境教育の徹底	環境美化への意識付け	・ゴミ分別、掃除の徹底 ・紙パックや紙コップのポイ捨て抑止 ・5S活動の実践	・委員会活動の活性化 ・缶やペットボトルの指定場所での回収 ・トイレ掃除マニュアルの見直し	B	・各教室の分別状況は良くなってきたが、長期休業中や週末に分別ができていないことがあるので、今後対策を検討する必要がある。 ・トイレ掃除マニュアルを改定し、保健委員会で毎日点検を行った。
		省エネや省資源に対する理解	・電気使用量現状維持 ・可燃物重量3%減	・省エネや省資源に対する意識付けのための講習会の実施 ・隔月でエコ通信の発行 ・太陽光広報パネルの活用 ・エコ活動強化月間の設定	B	・エコ通信は不定期に3号発行した。エコ活動を通して何が得られるか等、生徒の興味を引く記事を工夫しながら定期発行を続けたい。 ・7月の電気量以外は、例年を下回ることができた。さらに節電をはじめエコ意識の醸成を推進していきたい。
	図書館教育の充実	図書館の利用促進	・生徒一人あたりの貸出数10冊以上 ・朝の読書の徹底 ・蔵書の整備と充実	・広報活動や図書委員会活動の充実 ・朝の読書の啓発と支援 ・読書や学習に資する図書の選定 ・蔵書の電算化と整備	B	・生徒一人あたりの貸出数は10冊以上を達成した。特に2年生の貸出が増加している。 ・アンケートによると、朝読書の時間に自習をする生徒が増加傾向にあり、今後対策を考える必要がある。 ・職員や生徒のリクエストに積極的に応えた。特に専門図書の更新を行うことができた。
	安全管理の徹底	危機管理意識	・校内における事故ゼロ ・隔月の安全点検実施 ・自己管理意識を高める	・危機意識向上の職員研修実施 ・安全点検による環境改善 ・生徒保健委員会の広報活動の活性化(事故防止、発生時の対応)	B	・日時等を事前に公開しない防災避難訓練を実施し、危機意識の向上を図った。 ・避難所運営マニュアルの研修の中で、担当者を決めることで意識の向上を図った。 ・北辰祭での学校保健委員会の発表のテーマを『事故防止と発生時の対応』とし、提案、協議を行った。
		危機管理マニュアル	・危機管理マニュアルの作成	・緊急事態発生時の訓練の実施 ・危機管理マニュアルの周知徹底	B	・避難訓練、シェイクアウト訓練等を計画・実施し、緊急時の対応を確認した。 ・今年度は避難所運営マニュアルの説明研修を行い、危機意識の向上を図った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
		健康管理	・救急体制の確立 ・健康診断事後措置の徹底 ・健康観察の充実	・救急法講習会の実施 ・家庭との緊密な連携 ・職員の共通理解と情報交換の徹底	B	・健康診断受検率は、眼科・歯科検診以外100%、色覚検査については学年、進路指導部と連携を図りながら希望者に実施した。 ・救急搬送は8件。

4 学校関係者評価

本年度、学校の教育活動については、概ね高い評価をいただいた。特に、「教育目標や重点目標は分かりやすく示されている」、「生徒の進路実現のために努力している」、「生徒は明るくきちんと挨拶することができる」、「生徒は地域の行事や活動に積極的に参加している」の項目で評価が高かった。一方、「授業力の向上や学力の充実に努めている」の項目でやや低い評価であった。

意見としては、「学校のHPが充実し、生徒募集にも力を入れていることが志願者の高い倍率につながっている」、「体育大会等の行事や授業における生徒と教職員の生き生きとした様子に教育の充実が感じられる」等の評価をいただき、課題としては、「生徒の家庭学習の時間の少なさ」が挙げられた。また、要望として、「学校の地域行事やボランティア活動への取組を積極的に外部に発信すること」、「資格取得について、その内容やメリットを生徒、保護者に分かりやすく周知すること」、「学校の活性化に向けて女子生徒の増加を図ること」などの意見をいただいた。

こうした意見を真摯に受け止め、今後も教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、9個の大項目に対して38の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が9個(24%)、B評価が28個(74%)、C評価が1個(2%)、D評価は0であった。昨年と比較すると、Aの割合は10ポイント減少し、Bの割合は16ポイント増加、Cの割合は5ポイント減少した。具体的には、生徒指導、特別支援教育、環境教育において改善している。

学校評価アンケートのまとめでは、「小川工業高校に入学して良かった」という生徒の割合は、86%(前年度81%)、また、「自分の子どもを小川工業高校に入学させて良かった」という保護者の割合は96%(前年度97%)で、生徒、保護者ともに高い結果であった。

(2) 本年度の重点目標について

①専門高校として、ものづくりを通した人づくり教育の推進

学校評価アンケートでは「本校は工業教育の推進に積極的に取り組んでいる」という保護者が95%、生徒が84%で高い結果になっている。工業系大会では、エコ電カーが九州大会3連覇、マイコンカーラリーは4年連続全国大会出場の実績を残している。また、資格検定ではジュニアマイスター認定者数はゴールド10、シルバー29と昨年を大きく上回るなど、指導の充実が見られた。

②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実

学校評価アンケートの「学力向上や分かりやすい授業づくりの取組」に関して、職員は高い、生徒は低いという相反する結果が出ている。また、生徒の家庭学習の取組も定着しておらず、今後の課題である。本年度、授業の充実に向けて授業改善の職員研修を実施したが、今後も継続的に取り組んでいく必要がある。

進路実現については、進路指導部と3学年が連携して熱心に取り組み、就職は1次の合格率は92%と高く、11月中旬には100%の内定を達成した。進学についても推薦入試を中心に1月には希望者全員が合格した。

③心身ともに健康で、豊かな心を持った生徒の育成

基本的な生活習慣や規範意識の確立に向けて、生徒指導部を中心に学年と各科が連携して登校指導や頭髪服装指導など、継続した取組を行った。いじめ防止についても丁寧に取り組み、早期発見、早期対応をすることができた。体育大会や文化祭等の学校行事では、生徒が意欲的に取り組み、成功を収める過程で、一体感や充実感、自己有用感などにつながった。部活動の加入率も93.4%と高く、各部の熱心な活動が生徒の心身の健康に役だっている。

また、工業高校として、地域の人たちや特別支援学校の子どもたちに手作りの製品を贈ることで、「使う人のことを考えた優しさ、思いやりの心」を育成することができた。

④地域に信頼され、特色ある学校づくりの推進

今年度も工業高校の「ものづくり」の知識や技術を活かして、地域連携や地域貢献の取組を行った。様々な祭りやイベントで運営や製品の展示販売に携わり地域との交流を深めるとともに、地元小学生にはものづくり教室を開催して、ものづくりの楽しさを伝えた。また、特別支援学校には、児童生徒

が、楽しんで学べる教材教具を開発・提供し、相互の交流を深めることで、お互いの連携と教育活動の充実につなげることができた。他にも、今年で10年目となる近隣小学校での絵本の読み聞かせや地域の様々なボランティアに多くの生徒が積極的に参加した。

今後も工業高校として「ものづくりを基盤とした人づくり」、「ものづくり技術を活かした、地域に役立つ学校づくり」を目指して特色ある教育活動の創造に努めていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

入学志願者確保のために教務部を中心に広報活動など、様々な取組を行ってきた。その結果、前期選抜1.98倍、後期選抜1.03倍と募集人員を上回ることができたが、今後も少子化等の影響の中、引き続き生徒募集の取組を充実させていかなければならない。

本年度、学校改革と働き方改革を推進し、負担感軽減や生徒と向き合う時間の確保、教育の質の向上に取り組んできた。週1回の定時退勤日も導入したが、今後も継続的に改善と充実を図って行く必要がある。

(2) 授業改善と学力向上

本年度の取組に引き続き、「主体的、対話的、深い学び」の視点から授業改善の取組を推進し、生徒の興味関心を高め、分かりやすい授業づくりに努めていかなければならない。そのために研究授業の充実を図るとともに、内外の研修等を活用していきたい。

また、生徒の家庭学習の習慣を定着させるために、家庭学習時間の調査など具体的な取組を行っていく必要がある。

(3) キャリア教育の充実

進路決定の充実や将来の離職防止のために、高校3年間を見通したキャリア教育の見直しを行う必要がある。各学年で必要な進路指導計画を立て、各種進路情報やインターンシップ等の体験活動を提供し、望ましい職業観、勤労観を育成するとともに、生徒に将来の目的や目標をしっかりと持たせ、それをもとに日々の高校生活を大切に過ごさせていかなければならない。そのために二者面談や三者面談を充実させ、保護者や関係機関との密な連携を図っていく。

(4) 生徒指導の充実

S K B活動(5 S、3 K、1 B)に基づいて、基本的生活習慣及び規範意識の確立に向けて日ごろから全職員で取り組んでいかなければならない。生徒には、学業、部活動、学校行事などに意欲的に打ち込ませるとともに、生徒会活動の活性化など、生徒の自主性を引き出す取組を推進していきたい。

交通安全については、生徒の意識も高まり、違反や事故は減少傾向にある。今後も交通違反及び交通事故0を目指していかなければならない。

(5) 工業教育の推進

特色ある学校づくりのために引き続き工業教育の充実を図っていかなければならない。本年度、ジュニアマイスター認定者数は昨年度より増加したが、今後も工業高校の取組の柱として資格及び技能検定取得の充実を図っていく必要がある。また、ものづくりコンテストをはじめとした工業系各種大会で活躍できるよう指導の在り方を検討し、実績につなげていきたい。さらに、学習活動のまとめとなる課題研究の充実を図るために、今後は地域貢献活動を積極的に取り入れ、より一層の地域連携を目指していく計画である。